

会 議 録

1 会議名

令和2年度第10回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・古城小学校の学習環境の改善に向けて在り方・方策の検討状況について（公開）

【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和2年10月20日（火）午後6時30分から午後8時12分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

4人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、
磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、
田中 実、田村雅春、林 昌宏、古澤悦雄、増田和昭、町屋隆之、
丸山岳人、水澤敏夫、水島正人
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、
霜越会計年度任用職員
教育総務課：新部課長、戸田参事、内山係長

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：丸山委員、今川委員に依頼

議題【報告事項】「古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況について」について、担当課へ説明を求める。

【教育総務課：新部課長】

- ・挨拶
- ・資料No.1 「古城小学校の学習環境の改善に向けた在り方・方策の検討状況」に基づき説明

【中澤会長】

説明に対し質疑を求める。

【磯田委員】

1点目、受入れ側の直江津小学校のPTAに説明をされたと思うが、そこでどういう話が出たのか、或いは受け入れの賛否について状況を教えていただきたい。

2点目、古城小の子どもたちを受入れることによって、直江津小学校が、今、各学年1クラスだが複数クラスになる状況なのか教えていただきたい。

【教育総務課：新部課長】

1点目、直江津小学校での説明会の様子がどうだったかという質問かと思うが、直江津小学校では、保護者の皆さんをはじめ学校運営協議会、後援会の皆様に説明をさせていただいた。皆さんは、好意的に受けとめられていて、反対の意見はなかった。なお、古城小学校の方から、17人と非常に少ない子どもたちが新しい学校に入っていく中で、いじめられないかといった不安の声があったため、それについて、直江津小学校の関係者にご配慮いただきたいと話をしたところ、よくご理解をいただき、特に校長から「いじめはないように、いろいろと考えながらやっていかなければならない」という話も聞いており、また、地域の皆様からも、受け入れ体制を考えていきたいという意見をいただくなど、好意的に迎えていただける状況である。

【教育総務課：戸田参事】

2点目のクラス編成のご質問についてだが、お手元の資料の裏面の5参考のところに、令和4年度から古城小学校と直江津小学校の児童が一緒になった場合の人数が掲載されている。統合後の人数を見ると、1番人数が多いのが5年生の35人である。統合後も2クラスにはならず、クラス数は変わらない。

【青山副会長】

統合に向けた環境づくりということで、スクールバスの運行について記載されているが、自分の記憶によると、小学生の場合4 kmを超えたらバス利用が可能だったと思う。直江津小学校から古城小学校に向かって4 kmというのはどの辺まで範囲になるのか。超えた場合には、間違いなくバスを運行してもらいたいと思う。

【中澤会長】

スクールバス或いは、路線バスが必ず運行するという事か。保護者には、スクールバスの件はどういうお話をされたのか。

【教育総務課：新部課長】

通学の面で2本の橋を渡ることになる。保護者の皆さんとの意見交換の中で、ここを小さいお子さんが歩くことに非常に不安感を持たれている。その対応として、今ほどスクールバスは、4 kmというお話があったが、原則としては、3 kmというのが一定の基準である。3 kmを超えるところはスクールバスを出すということだが、古城小学校区は3 km以内であるが、私どもが提案しているのは、2本の橋を渡る危険性を考慮して、特別にスクールバスを運行するか、路線バスを無料で利用いただくかである。どちらにするかは正式決定していない。いずれにしても、バスで送迎できる形をとりたいという考えである。

【田村委員】

統合の考え方は別問題として、教育に対する考え方は非常に立派だと思う。多様な意見を尊重しながら、子どもの切磋琢磨を目指して育成していくという考え方自体はいいと思う。問題は、今回、たまたま人数が少なかった古城小学校の例を挙げたが、中心市街地で考えれば、将来、直江津南小学校と直江津小学校にこの児童数を維持できるのか。私は、人口減少社会の中で非常に疑問を持っている。こういう考え方は一貫していくのか。今回は複式学級になったから、いろいろ環境整備ができないということで、こういう結論になったのか。その辺をもう少し詳しくお聞きしたい。

【教育総務課：新部課長】

教育委員会としては、まず複式学級を解消する考えである。市内に、古城小学校を含め10校で複式学級が存在している。複式学級とは、単一学年ではなく、上の学年であったり、下の学年であったり二つの学年が一緒に授業するという事なので、いろいろな面でデメリットが生じてくる。

それと、いろいろな社会の多様性を育てていくには、やはり一定の集団の中で、授業

を学びあえるという環境になればと考えている。その環境から外れてしまうのが複式学級であると捉えている。

まずは、複式学級の解消を目指すことを第一として取組を進めていることをご理解いただきたい。

【町屋委員】

裏面の参考5の(2)に適正規模と小規模という文言が入っている。あえて、適正規模の学校とそうでない学校がある中で、複式学級を速やかに解消したいというのは、そのとおりだと思う。

ただ、私の中での適正である、適正ではないという定義として、クラス替えができない学年は適正ではないと思っている。全然クラス替えができないという危険性は、今の教育環境、社会に出てからの適応性という部分で、中学校へ入ったとき、もしくはもっと上へ行ったときに、クラス替えの有無は子どもたちに対する影響がすごく大きいというのを見ている。

直江津区の住民は、普通に考えれば古城小学校を統廃合して直江津小学校に入れるのは異論がないと思う。しかし、それででき上がるのは、結局小規模校である。複式学級を解消するためにクラス替えができない学校に入れるということ。要は、適正規模ではない学校を選定するというのをどのように考えているのか。

【教育総務課：新部課長】

まずは、同じ中学校区であることが1番になろうかと思う。次に、隣接する地域となる。そうすると、直江津小学校が1番適切であるということでご提案を差し上げている。

今ほどのご質問の趣旨は、合併しても小規模校ではないかというお話かと思うが、確かにそのとおりである。国の定める基準では、適正規模は、クラス替えができるということで、1学年2学級から4学級が適正と言われている。これは国の定める基準だが、上越市においては、これを達成するのは非常に難しい。まず地理的に、山間部で山あり谷ありのところを山を越えて一緒になるというのもなかなか難しい。

また、それぞれの地域で、それぞれの歴史がある中で、それを一気に進めるというのは難しい。まずは、複式の解消を目指しているということでご理解いただきたい。

【町屋委員】

今、山間部における距離的な部分、地理的な部分というお話をされたが、確かにそうだと思う。ただ、その話は直江津に当てはまるのか。1番隣接校だから直江津小学校が

選ばれた。直江津区の人だったら何も考えないで同意すると思うが、それを行政の立場から考えたときに、同じ回答が出てくるのか。

例えば、バスで、古城小学校区から出てきて、降りる先が1 kmも変わらないところにもう一つ小学校がある状況で、住民感情ではなく、行政から見てそこにする理由を教えてください。地理的な部分で言えば、もう1校小学校があるではないかという話である。あえてここに、適正とそうでないという話であれば、適正を目指すのが筋ではないか。

【田村委員】

学校の問題は、直江津区ではいつも議論になる。なぜなら直江津小学校と直江津南小学校がほんのわずかな距離である。駅南は住宅が増えて人数が増えた。直江津小学校は旧市街地で人口減少している。合併論議がされてきたことも事実なので、歯にものが入ったような話になる。

【中澤会長】

学校の統廃合と言うと、保護者の方という言葉がいくつか出ているが、地域の人々にお話をするということはあったのか。私は、理解することは、やぶさかではないが、果たして本当に納得しているのかどうかを知りたい。保護者は、やはり子どもがいるので、何かちょっと反発するようなことを言ったら、子どもが不利益をこうむるのではないかという遠慮がある。だから、あまりはっきりしたことは言わないが、本当に保護者が納得しているのか。

それから、学校がなくなるということは、まさに、ふるさとを失うというような喪失感を伴う。そういうところまで考えたときに、古城小学校を卒業した人も随分いると思うが、そういう人にも話をすべきではないかと思っている。今後、そういう機会を持たれるのか。

それから、皆さんあまり言わないが、新聞に平成17年度以降、随分学校が統廃合していると出ている。資料の裏面の下のほうに、これから10校が統廃合の対象になりそうだというお話だが、学級数はどのくらい減るのか。教員定数は、学級数で決まってくる。学校が1つ無くなると、管理職も含めて随分教員の数が減るはずなので、これは相当な合理化である。そのよし悪しは分からないが、多分それが1つの目的だと思うので、今後、その10校が古城小学校のような形で統廃合した時に、教員定数はどうなるのかもお聞きしたい。

【教育総務課：新部課長】

1点目の、その地域への説明の件だが「学校がなくなるということは、地域の喪失感が大きい」というのは、どこの地域にも当てはまることであるので、私どもとすれば、慎重に慎重を重ねながら進めてきており、保護者との意見交換会は平成29年度から進めてきた。説明会をする前にも、地元の町内会長に趣旨説明をし、その町内会長のお考え等もお聞きしながら進めてきている。地域の皆様も現状を踏まえると、いたし方ないというのが共通のご意見であると受けとめている。学校がなくなることによる喪失感や地域振興の面で、学校を通じて様々なイベントを行ってきており、特に古城小学校区は地域振興が盛んなことから、そういったことを心配されるご意見も確かにあるが、それは、今回の統廃合とは別に考えていかなければならない問題であると思っている。統合することについては、保護者の皆さん、地域の皆様ともに、ご理解を得られたものと私どもは受けとめている。

続いて、複式学級のある10校については、その解消に向けて、古城小学校以外の学校でも協議を進めている。まだ、今回の統合というような、具体的な対応策は見えてはいないが、意見交換は進めている。もし、10校が統合した場合に、クラス数と教職員数がどうなるかは、回答を持ち合わせていないので、ここでの回答は控えさせていただきたい。

【中澤会長】

この資料は、地域の保護者に説明をした資料と同じ資料とのことだが、これは、もう方向は決まっていて統合ありという方向で作られている資料だと思う。すべてのことに功罪があるわけで「こういう弊害がある」と言われたら、聞いている人はやはり複式学級は良くないとか、古城小学校は統合しなければいけないのかと思う。その功罪の罪のところだけでなく、功のお話もされたのか。少人数教育には少人数教育の良さがあるわけで、学年が違う友達と学ぶのも利点もあるわけで、そういうお話もされたのか。多分、されていないだろうと思う。だから、資料としては、そのプラス面とマイナス面の資料も示していただければありがたい。

【教育総務課：新部課長】

資料の作り方は、ご指摘をいただいた面では、不足している部分があったのかと反省をしている。ただ、保護者の皆様との意見交換会の中では、メリット、デメリットをしっかりと議論をさせていただいた。私どもは、統合を誘導しているわけではなく、複式

学級のメリットはもちろんある。これは、学校の先生とマンツーマンで顔を合わせながら、深い授業ができるというのは、一つのメリットだと考えている。そうしたことも、保護者の皆様方と意見交換しているが、やはりデメリットのほうが大きいと感じ取られている保護者が多数、ほぼ全員とも言っている状況である。皆様から、そういった声をいただき、今回このような形で説明をさせていただいている。

【増田委員】

どこに1番焦点を当てて判断するかは、子どものためである。大人たちの思いで学校残せという話ではなく、今の子どもたちが、どういう環境で勉強してもらうのが1番いいか、将来役立つかという判断をしないといけない。ただし、会長がおっしゃったように、保護者の皆さん或いは地域の皆さんからどういう懸念の声が出たかというのが、ここにあまりはっきり書いてない。最初は、保護者の皆さんも、反対という人が結構いたようなお話をされたので、当初、保護者の皆さんがどういう観点で反対の意見を言われ、それに対してどういうお答えをしたのかを参考までに聞かせていただきたい。私たちは、保護者の皆さんの不安を解消して、気持ちよく統合してもらいたいと思っているので、その辺の配慮をお願いしたいという観点からお伺いしたい。

【教育総務課：新部課長】

平成29年度から意見交換をしてきた当初は、反対する保護者の皆さんのほうが声としては大きかった。それは、学校がなくなることへの寂しさや、地域の皆様のことを心配されてのご意見が多かったように受けとめている。その当時は、30人からの人数がいたので、今のような状態になっていなかった。その後、子どもたちの数が減ったことと、なおえつ保育園ができ、新しく入って来る子どもたちは、保育園は一緒だが小学校に上がると分かれるということもあり、そのような変化から統合を進めて欲しいということに変わっていったのではないかと受けとめている。

【竹田委員】

今、平成29年度から説明をされて、反対されていた人も納得して、賛成に回られたというニュアンスのお話だったが、私は、古城小学校の地元だが、反対していた人のお子さんが卒業されて反対する人がいなくなっただけのことだと思う。実際この統合の話は、説明を聞いていた学校関係の人、PTAの役員の方は前々からご存知だったと思うが、一般の保護者、地域の住民にとっては、割と突然出てきた話である。

先日、古城小学校で学校運営協議会があったが、その際もこの説明があった。その後、

2、3日してから「どうなっているのだ。全然話を聞いてないぞ」と怒ってこられた人もいた。それを考えると、説明が不十分なのではないかと思った。今の保護者、町内会の役員が、仕方ないけど賛成だと言っただけで、全員が賛成しているわけではないということを理解していただいて、もう少し丁寧に皆さんに伝わるような説明をしていただきたい。

私は、小学校に定期的に行って子どもたちと直接接するが、この話をまだ全然理解していない子どももいるし、他の小学校に行くのは嫌だと言っている子どももいる。できれば、保護者にもう一度、丁寧な説明をして子どもたちに伝わるような形をとっていただけるといいと思う。

【水島委員】

私も、同じく港町の出身である。今、説明の中で違和感が何点かあった。1番に言うのは、竹田委員が言われたことである。子どもが主役であり、大人が異動するわけではない。いろいろな都合は分かる。廃校も統合も分かる。しかし、子どもが納得していない、子どもを動かすのは、親の都合、社会の都合である。そして、先ほど中澤会長がおっしゃられた、財力がということも関連がないわけではない。先生を1人おけば、年間幾らかかり、それがなくなればという話も現実的に出てくる。

例えば、古城小学校に今お勤めになっている先生が、令和4年になると統合になり、古城小学校では働かない。そういう財力的なことは小学生の子どもには分からない。その辺の説明を、先ほど竹田委員がおっしゃられたように、子どもが納得していないということは、親にもきちんと説明されてない。だから親が子どもに納得できるような説明もできないということになるのではないか。

それと、例えば、学校が統合になった。直江津小学校へ行ったが馴染めない。では、あなたは駄目だというわけにいかない。教育委員会として、その辺をどうお考えになっているのか意見をいただきたい。

【増田委員】

財力の話があったが、行革の観点から、教員は減らそうという考え方は必ず出てくる。そのために子どもたちが犠牲になってはいけないが、おそらく教育委員会も上越市も、財政強化のために教員を減らそうという考え方はどこにもないはずである。そのことをしっかりと明言しておかないと、今みたいに、いろいろな考え方が出てくるので「方針はここだ」ということをはっきりと明示してほしい。そうでないと、いろいろな憶測や

噂が飛び交って、変に混乱するとまずいことになるので、基本的なことをお答えいただければと思う。今、ここでお答えいただきたいと、あえて言うのは、後々「実は財政のことを考えて減らします」みたいな話が出てきたときに「ここで発言いただいたことと違うのではないか」と言える。そのためにも、しっかりと明言をしていただきたい。おそらく市民も、混乱しなくてもいいところでも混乱するということになると思うので、私は、その辺ははっきりさせておきたいと思っている。

【町屋委員】

先ほどから先生の数の話があるが、そうではなくて、例えば、さっきの子どもが納得しているのか、保護者が納得しているのかというところに、フォーカスしてお話を聞きたい。本当は、ここの中でも議論をするべき話であって、子どもが納得することが本当に必要なのか。子どもの環境を作るのは大人であって、大人が議論した中でこれがベストだと決めるしかない。

それを子どもたちの話を聞いているのかという話になると「何々ちゃんと一緒がいい」みたいな話になってしまう。そういうものは全部切り離して、シンプルに仕組みとして、そういう部分でのお話を、もう少し丁寧にお伺いできればいいと思う。

【水島委員】

町屋委員がおっしゃられたとおりでと思う。ただ、最後にお聞きしたのは、前段があってそれを聞きたいために、教育委員会として、今後、子どもたちに対してどういうケアをするのかを聞きたくて言っただけである。

【田村委員】

資料の3の内容、通学方法のスクールバスの運行は当初から市で考えていたのか。仮に考えていたのであれば、直江津小学校だとクラス替えできないのに、なぜ直江津小学校にしたのか。ただ単に近だけか。

【中澤会長】

古城小学校と直江津小学校が一緒になっても、学級数が増えるわけではない。何のために一緒になるのかという話になると思うが、その辺をお答えしていただきたい。

【教育総務課：新部課長】

私どもの取り組みは、クラス替えができる程度の学校に持っていきたいという理想はある。これは国の基準である。1番課題になっているのは、複式学級のある学校だと捉えている。私どもの取組は、複式学級を解消して、少なくとも各学年で授業ができる学

習環境を整えたいということを進めていることをご理解いただきたい。

【町屋委員】

理想があるが現状の課題もあるというのは分かる。だから、古城小学校の話はすごくわかりやすいのが、今現状で複式学級になったからレッドゾーンである。これは危ないから解消しようという形で動き出している。多分これが5年前に古城小学校と直江津小学校の合併と言ったら、地域の人は大反対をしたかもしれない。今現に「もう今あなたがた待たなすですよ。複式ですよ」と言われたら、納得せざるをえない状況になると思う。だから、古城小学校の複式をどうにかしないといけない。だから、他の学校と統廃合する。そこまでは理解できる。

近隣の学校に、適正であると言われる学校と、適正までは至らない学校がある。どちらを選びますかという時に、地理的な条件もほぼ変わらない。特にバスで来るのであれば、なおさら変わらない。バス停でいえば一つ違うか違わないところで、適正ではない学校にあえて、合併の話が進むというのは、そもそもどういふことで始まったのかという質問である。

地域感情なしにして行政の人が見たのであれば、適正状態の学校があるので、そこに入れたほうが、古城小学校から入ってくる子どもたちは、むしろ、クラス替えもできるし、あえてわざわざクラス替えできない直江津小学校へ入れる意味がわからない。山間部の何十キロも離れている学校だったら話は別だが、その2つの学校の距離はほとんどない中で、それが前提で話が進む行政側の考え方を教えてほしい。

【田村委員】

むしろ子どものためなら、クラス替えができるころのほうがいいのではないかな。教育環境から考えれば、100m程の距離で、スクールバスを使うのであれば、そういう教育環境がいいのではないかな。

【古澤委員】

例えば、直江津南小学校で受け入れた場合、体制はどうなるのか。例えば、人数だが、今、かなりいらっしゃる。その辺のバランス的な話をしていただけないかな。

【教育総務課：新部課長】

なぜ直江津小学校なのかについては、今回の話は保護者の皆さんとの意見交換会を進めていく中で、直江津小学校への統合という話が出て、このような形になっていることをご理解いただきたい。

この資料の1番最後にもあるが、古城小学校の歴史をたどると直江津小学校から分離設置されている小学校である。同じ中学校区であり、歴史的経緯から考えて、あとはその距離の問題もあるが、直江津小学校が1番適当であるということである。

要するに歴史的なことも含めて、様々な観点で考えた結果、これは保護者の皆さんの意見もいろいろお聞きした中で、このような話になっているということをご理解いただきたい。

【磯田委員】

先ほどの町屋委員の意見は、国が定める適正基準の学校があるから、そこにしたほうがいいのではないかという話だが、そういうものが理想としてあるが、資料の裏面の1番下にもあるように、クラス替えができない小規模校が、直江津小学校を含めて21校ある。これが現実である。国の定める基準の学校は11校しかないという中で、全部が全部、適正校に行けるわけではないという話が根底にある。行政としてどう考えるかは、もしかしたら、直江津小学校を1学年1クラス維持していくためにも、古城小学校の皆さんの学区を入れて存続させる。それを存続させるという意図もあると思う。

平成22年頃から、学校の適正配置計画が上越市で定められていて、それが今も残っているかわからないが、その頃に直江津小学校と直江津南小学校の合併話はあったが、地域住民、保護者とのボタンのかけ違いがあって、なかなかうまくいかない。学校問題は、非常にセンシティブな話なので、なかなかうまくいかない。ある意味ではやはり適正な規模に、或いは、直江津南小学校の学区の状況から考えれば、町中の市街地エリアは直江津小学校にして直江津南小学校は駅南地区にとかにすれば、ある意味で、数字からすれば、一番理想の適正配置なのかもしれない。そこは、なかなか解決ができなかったというのを踏まえながら、行政としては、直江津小学校と合併するのが、今のその11学年1学級を維持していく中で、1番いいとは言わないがベターなのではないかと理解している。

【町屋委員】

今、磯田委員の言われたことを、行政の人から聞いたかった。小学校統合はセンシティブなお話で、いろいろなことがあってそれがうまくいかなかったという経緯がある中で、そうやってご破算にもできるという話になった時に、今回なぜ直江津小学校なのかと言ったときに、行政の人は「これは古城小学校の保護者からのニーズである」みたいな話になっている。

合併というのは、対象者からすれば、望む、望まずにかかわらず、やらなければいけないと思うから、皆さん涙を飲むものだと思うし、その当事者でなくても涙ものだと思うのに、保護者のニーズを入れるのか。「では、大反対すれば、しなくてもいいのだ」という話になった時に「それは違う。やはり、これは必要なことだから」と言って進めるのが行政の役割だと思う。

【教育総務課：新部課長】

たくさんの意見をいただいた。今ほど、保護者が言ったからそうしたというようなことをおっしゃられたが、決して、そのように説明したつもりはない。保護者の皆さんとの意見交換を重ねてきた中で、このような形づくりをしているということである。

先ほども申し上げたが、古城小学校の沿革を見ると、もともと直江津小学校から出たということもあり、同じ小学校区、そして距離的にも近い地域の結びつきがある。そういったことを考えると、私どもとしては直江津小学校が1番適切だと思う。私どもは今、複式を解消するためにやっているわけで、地域の結びつき、歴史を考えて直江津小学校に編入統合という形で提案させていただいている。

【中澤会長】

どちらの立場に立つかによって、言い方が変わってくる。スケジュールからいって、来月諮問というお話だが、実は地域協議会でこの話を取り上げるのは、今日が初めてである。先ほど、竹田委員からも話があったが、まだ地域に対して浸透力がないのではないかと思っているのも、もし、諮問を出されるのであったら、その辺も地ならしをしていただければありがたいと思う。

【教育総務課：新部課長】

地域の皆様への説明が足りないのではというご意見については私どもも内部で検討してまいりたい。これまで、私どもとしては、丁寧に進めてきたが改めて考えてみたいと思う。

ただ、保護者の皆様と意見交換を重ねてきた中で、保護者の皆様は、やはり強い希望を持っている。それは、先ほど増田委員がおっしゃられたように、私どもとしても、その子どもたちのことを第一に考えていることであって、決して、金銭的な面とかで考えているわけではない。そこは、どうぞご理解いただきたい。

なお、学校の先生の人件費は県費である。県の負担であり、上越市の財政としては、何ら影響のあるものではない。

【中澤会長】

質問意見等の時間を終了する。

— 教育総務課 退室 —

次に、【自主的審議事項】「直江津まちづくり構想について」事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・資料No.2 「町内会長との意見交換会について」に基づき説明

【中澤会長】

- ・意見を求めるがなし

次に、その他について事務局へ説明を求める。

【小池係長】

- ・次回協議会日程：11月17日（火）午後6時～

【中澤会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。